

## 2015(平成27)年度事業報告書

[2014年(平成26年)12月1日～2015年(平成27年)11月30日]

### 災害救援事業

#### 【地震など災害被災者救援キャンペーン】

##### ◇東日本大震災救援金

3月で5年を迎える東日本大震災ですが、復興庁によれば津波で家を失ったり、東京電力福島第一原発事故で住む場所を奪われたりして避難生活を送る人は約18万2千人、復興はいまだその途上にあります。15年度は読者から当事業団に寄せられた震災救援金700万円を、11月に日本赤十字社に寄託しました。

これまでに当事業団から日赤などに寄託した寄付金の総額は5億807万2954円で、大阪・西部社会事業団も含めると、総額は11億1690万256円となっています。皆様のご協力を改めて感謝申し上げます。

##### ◇ネパール地震救援金

4月25日にネパール中部でマグニチュード7.8の地震が発生、多くの建物が倒壊し、9000人近くが死亡しました。当事業団は4月28日付朝刊から社告で救援金の受付を開始しました。

7月に3事業団合計で集まった3400万円を日本ユニセフ協会、国連UNHCR協会、国連世界食糧計画WFP協会、AMD A、アジア協会アジア友の会、AAR難民を助ける会の6団体に贈呈しました。さらに当事業団からはその後寄せられた200万円を第2次贈呈分として9月にAMD Aに送り、3事業団の贈呈総額は3600万円となりました。

##### ◇関東・東北豪雨災害救援金

茨城県常総市の鬼怒川堤防が9月10日午後には決壊し、市内では濁流にのまれた2人が死亡、約40平方キロが浸水する甚大な被害をもたらしました。全半壊住宅は約5000件に及び、市人口の約1割に当たる6223人が一時、避難生活を余儀なくされました。

毎日新聞社と毎日新聞社会事業団は、いち早く災害救援募金を呼びかけ、10月までに3事業団に集まった1901万7924円のうち、801万7924円を日本赤十字社に、1100万円を同茨城県支部に、それぞれ贈呈しました。

## ◇毎日希望奨学金

震災発生から2か月後の11年5月、毎日新聞社と東京・大阪・西部社会事業団が創設した「毎日希望奨学金」への読者からの息の長い支援は15年度も続いています。

この制度は震災で保護者を亡くした高校・大学生等へ月額2万円を正規の最終卒業年度まで給付するもので、返還の必要はなく他の奨学金との併用も可能です。初年度の156人に続き、12年度は188人、13年度は240人、14年度は214人、15年度は215人に支給しました。

この奨学金の趣旨に賛同していただいているミュージシャンからの支援活動も続いています。15年3月2日のサントリーホールでのクラシックコンサート「がんばろう！日本スーパーオーケストラ」においては、出演した演奏家たちが自ら募金箱を持って、奨学金への寄付を呼びかけました。

同5日には、阿川泰子さん、日野皓正さん、ジョン・健・ヌッツォさんらによるチャリティコンサートがBunkamuraオーチャードホールで開催され、震災遺児支援へのお力添えをいただきました。

## 社 会 福 祉 事 業

### ◇児童養護施設へのプレゼント

歳末助け合い募金を原資に実施している事業で、15年度で47回目となりました。親の死亡や虐待、離婚の増加に伴い施設への入所児童が増え、定員枠を広げて受け入れる施設もあります。15年度は東日本地域の民間施設244カ所に「スポーツ用具」「文具」「木製おもちゃ」などを贈りました。費用は379万6191円でした。

### ◇ホームレス支援

路上生活者の方々が少しでも温かい年末年始を過ごせるよう、東京都台東区の山谷地区で支援活動をしている山谷兄弟の家伝道所「まりや食堂」、特定非営利活動法人「自立支援センターふるさとの会」、ホスピスケア施設「きぼうのいえ」、アルコール依存症からの脱却・自立を支援している横浜市の「市民の会寿アルク」の4カ所に計80万円を助成しました。

#### ◇第45回毎日社会福祉顕彰

第45回毎日社会福祉顕彰の贈呈式を15年10月26日に開催しました。受賞された個人・団体は次のとおりです。受賞者には各100万円を贈呈しました。

- ① 認定特定非営利活動法人 ホームホスピス宮崎（市原美穂理事長。宮崎市）＝民家を利用した緩和ケア病棟開設など在宅ホスピスの先駆けです。
- ② 「ピーチ&グレープ」代表 芦沢茂夫さん（山梨県南アルプス市）＝ご自身の障害者としての自立経験を生かし、車いす生活者の生活環境改善に尽力されています。
- ③ 「あけぼの会」会長 ワット隆子さん（東京都目黒区）＝自らの手術を契機に乳がん患者の会「あけぼの会」を設立、患者支援と啓発活動に今も奮闘中です。

#### ◇第26回雪と遊ぼう 親と子の療育キャンプ

当事業団と日本肢体不自由児協会、NHK厚生文化事業団との共催事業。15年は1月10日～12日の2泊3日、新潟県南魚沼市の八海山麓スキー場で開催しました。児童22人とその保護者、ボランティアリーダー、医師、看護師、スタッフなど合計106人が参加しました。分担金100万円を支出しています。

#### ◇第59回手足の不自由な子どものキャンプ

当事業団と日本肢体不自由児協会、東京YMCAとの共催事業。15年8月6日～11日の5泊6日の日程で、山梨県の東京YMCA山中湖センターで開催しました。障害のある小学3年生から高校3年生までのキャンパー44人と、ボランティア、スタッフ、医師、看護師などの約100人が参加しました。分担金は150万円。

#### ◇母の日・父の日募金キャンペーン

05年から始まった「母の日・父の日あしなが募金キャンペーン」は07年度から「母の日・父の日募金キャンペーン」として、あしなが育英会への寄付だけでなく、児童養護施設の子どもたちへの支援活動にも役立てています。15年度は5月9日・6月17日に毎日新聞朝刊でキャンペーン記事を掲載、東京・大阪・西部の3社会事業団に170件、228万3300円（うち東京は98件135万2600円）の寄付が寄せられ、寄付金の2分の1をあしなが育英会に贈呈。残り半分を「交通遺児等を支援する会」、「日向ぼっこ」、「ブリッジフォースマイル」、「児童虐待防止協会」、「カリヨン子どもセンター」、「光の子どもの家」、「CVV（社会的養護の当事者支援）」、「かんらん舎」に贈りました。

#### ◇東京ヘレン・ケラー協会へ助成

同協会は中途失明者の更生施設としてヘレン・ケラー学院を経営、あんま・マッサージ・指圧、はり、灸などの資格習得のための教育、点字出版物の印刷発行、点字図書館の運営をしています。本団は同協会の設立に関わったことからヘレン・ケラー学院や点字図書館への助成、ヘレン・ケラー記念音楽コンクールへの助成、海外盲人交流事業としてネパールの視覚障害児への就学支援を続けています。例年312万円を助成していますが、今年度は第65回の記念大会となったヘレン・ケラー記念音楽コンクールに50万円の追加助成を行いました。

#### ◇交通遺児等を支援する会助成

交通遺児家庭を支援するために同会が行う「バスハイク」「クリスマスプレゼント」「入学お祝い金」に助成しました。35万円を贈呈しました。

#### ◇第84回全国盲学校弁論大会

視覚障害者の自立と社会の理解を促進するために点字毎日、全国盲学校校長会と共催している事業です。10月2日に浜松市で開催しました。分担金は20万円です。

#### ◇地域医療研究・実習への助成

15年度は前年同様、4大学のサークルから助成申請があり、東京慈恵会医科大学、慶應義塾大学医学部、東京女子医科大学、松本歯科大学に計68万円を助成しました。医療の手が届きにくい地域の高齢者施設や障害者施設での保健指導・健康相談や、離島での医療実習など、4大学の医学生たちが地域医療研究と実習を行いました。

本事業は始まってから60年余りとなりますが、地域の医療事情の改善とともにその役割が問われる時期もありました。しかし近年、医師不足から地方の中核病院の閉鎖が相次ぎ、地域医療の崩壊につながっています。農山村の過疎化が進む中で、医学生たちが地域医療の必要性とその問題点を学ぶことにより、この医療助成の果たす役割も再認識されています。

#### ◇いのちの電話への助成

1971年に設立された電話相談事業は45年目を迎えました。98年以降日本の年間自殺者数は3万人を超えていましたが、2010年からはようやく減少傾向が現れ始めました。とは言え警視庁及び内閣府の発表によれば、14年も2万5427人も人が自ら命を絶っています。

いのちの電話・東京では310名ほどの相談員が年間約28000件もの相談を受けています。その運営は民間の助成に頼るところが大きく、15年度は30万円に助成を増額しました。

#### ◇青少年健康センター・クリニック絆への助成

精神医学・心理学分野の優れた研究者を結集して、クリニック絆を開設。登校拒否、ひきこもり、うつ病などに悩む若者に対して、自殺予防のための治療と相談にあたっています。14年度から開始した助成を15年度も継続し30万円に増額しました。

#### ◇療育ネットワーク川崎への助成

川崎市で障害児を抱える母親たちのネットワークづくりを進め、障害を持つ未就学児や障害児童の一時預かりやヘルパーの在宅支援などきめ細かいサポートも行っています。14年度から30万円の助成を開始し15年度も継続しました。

#### ◇子どもの虐待防止センターへの助成

児童への虐待が社会問題として極めて深刻になっています。孤立して育児に悩む母親たちへの電話相談など、追い詰められた親子の悲劇を未然に防ぐための様々な支援活動を続ける同センターに対して、15年度から30万円の助成をスタートしました。

#### ◇第34回肢体不自由児・者の美術展後援と助成

障害者への理解促進につなげるため、日本肢体不自由児協会が主催しています。15年度も15万円を助成しました。

#### ◇その他の障害者福祉助成

- ・第40回わたぼうし音楽祭の後援と助成金10万円
- ・「声の点字毎日」の発行分担金10万円
- ・第64回関東聾学校体育連盟行事（野球大会、卓球大会）への後援と7万1280円相当の賞品贈呈
- ・15年度江戸っ子杯（野球大会、バレーボール・ドッジボールの部）の後援と7万632円相当の参加賞贈呈
- ・内閣府ほか主催する「心の輪を広げる障害者理解促進事業（体験作文及び障害者の日のポスター募集）」の後援と賞品贈呈（図書カード5万円）
- ・第43回日本車椅子バスケットボール大会の後援・助成金5万円
- ・中途失聴者・難聴者のための読話学習を進める「読話塾」への助成金5万円

- ・高齢社会に生きるボランティア講座（八王子市社会福祉協議会）への助成金5万円
- ・第33回福祉囲碁東京大会の後援と参加賞贈呈。参加賞としてタオル190本を贈呈（4万2120円）。
- ・第26回日本ブラインドテニス大会の後援と助成金3万円
- ・障害者と健常者の共生のための「わらじの会」夏合宿に助成金3万円
- ・日本点字図書館のチャリティー映画会の後援・助成金3万円
- ・第9回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグの後援と7344円相当の賞品贈呈
- ・第45回朗読録音奉仕者感謝行事（鉄道弘済会主催）の後援
- ・第47回東京都盲人福祉大会の後援
- ・第52回点字毎日文化賞の後援
- ・15年度の全国盲学校野球大会は愛知県での開催となったため、当事業団からの後援および助成金10万円は発生しませんでした。

#### ◇第48回日本陶芸倶楽部会員チャリティー作品展

日本陶芸倶楽部、NHK厚生文化事業団との共催事業。毎年5月に東京・日本橋の三越本店で同会員のチャリティー作品展を開催。本事業団とNHK厚生文化事業団は広報活動を担当。15年度は販売純益から169万2510円の寄託を受け、別途50万円が毎日希望奨学金にも寄託されました。

## 小児がん事業

### 【小児がん征圧キャンペーン】

1996年から始まったキャンペーンは15年度で20年目を迎えました。19次小児がん征圧募金は、東京社会事業団分810万円と、大阪・西部社会事業団分を合わせて総額1200万円を、15年3月に「がんの子どもを守る会」など小児がんや難病と闘う子どもたちへの支援や研究に取り組む全国29団体に贈りました。これまでの贈呈総額は3事業団合わせて2億9110万円となりました。

15年度では、小児がんや筋ジストロフィーなど難病の子供たちの支援を続ける「難病のこども支援全国ネットワーク」がレスパイト施設「あおぞら共和国」のロジ増設を計画、これに対し100万円の追加助成を行いました。

15年度も関連イベントが数多く開催され、恒例となった森山良子さんらによるコンサート「生きる～小児がんなど病気と闘う子どもたちとともに」は大貫妙子さんや憂歌団を迎えて7月に開催され、今回も皇后様をご観覧になりました。横浜・みなとみらいホールでの「New Year 若い命を支えるコンサート」や、バイオリンの川畠成道さんによる「グランドファミリーコンサート」、シンガーソングライター細坪基佳さんや永井龍雲さんのコンサート、「アフラック クラシックチャリティーコンサート」、竹下景子さんの朗読による「ごえんなこんさあと」（石川・福井）などが開催され、会場募金などをさせていただき、収益の一部の寄付もいただきました。

来年度も読者から当事業団に寄せられた寄付とこれらの会場募金などを合わせて、第20次分として「がんの子供を守る会」などの各団体に贈る予定です。

#### 【第19次小児がん征圧募金贈呈先】（順不同）

がんの子供を守る会▽そらぶちキッズキャンプ▽白血病研究基金を育てる会▽スマイルオブキッズ▽ファミリーハウス▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽難病のこども支援全国ネットワーク▽パンダハウスを育てる会▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リーグ▽チャイルド・ケモ・ハウス▽日本クリニクラウン協会▽近畿小児血液・がん研究会▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽あいち骨髄バンクを支援する会▽にこスマ九州▽久留米大学病院親の会「木曜会」▽こども医療支援わらびの会▽九州がんセンター小児科親の会「大きな木」▽福岡大学病院小児科親の会「みらい」▽福岡ファミリーハウス▽ファミリーハウス由布BABY MINE▽T i - d a わらば一む▽骨髄バンクボランティア福岡▽たんぼぼハウス（熊本）▽がんの子供を守る会九州北支部▽大分大学医学部附属病院小児科親の会「ブルースター」▽宮崎大学医学部小児がんキャンプ実行委員会（以上29団体）

## 海外難民救援事業

### 【海外難民救援キャンペーン】

14年度は、大地震から4年を経過した「西半球の最貧国」ハイチに取材班を派遣し

ました。10年のハイチ地震で親を亡くしたり、親の生活苦から人身売買されて奴隷同然の扱いを受ける子どもたち取材し、「見えない鎖」(ハイチ・ドミニカ報告)のタイトルで7月に紙面キャンペーンを展開しました。

東京社会事業団分590万円と大阪・西部社会事業団分を合わせた14年度分の海外難民救援金980万円を、15年3月に国連救援機関や難民支援活動をしているNGO(非政府組織)など22団体に贈呈しました。1979年以来、これまで贈呈した救援金の総額は、3事業団合わせて15億9423万8344円となりました。

15年度は「最貧国で生きる女の子」をテーマに、宗教的、伝統的に女性に対する性差別が根強く残るネパールで、「女の子だから」という理由で教育の機会を奪われ、将来を制限され、厳しい環境に追いやられながらも必死に生きる少女たち取材しました。国連が女子差別の撤廃を目指して制定した「国際ガールズ・デイ」(10月11日)の前後に合わせて「少女たちの祈り」と題した連続キャンペーンとして掲載され、読者の反響を呼びました。

集まった救援金は16年3月に贈呈する予定です。

#### [14年度分の海外難民救援金贈呈先] (順不同)

日本ユニセフ協会▽国連UNHCR協会▽国連世界食糧計画WFP協会▽AMD A▽シェア(国際保健協力市民の会)▽JEN▽シャンティ国際ボランティア会▽全国社会福祉協議会▽AAR(難民を助ける会)▽JVC(日本国際ボランティアセンター)▽バーンロムサイ▽ピースウィンズ・ジャパン▽緑のサヘル▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽ネパール・ヨードを支える会▽マハムニ母子寮関西連絡所▽ハイチ友の会▽CODE海外災害援助市民センター▽シエラレオネフレンズ▽ペシャワール会▽ロシナンテス(以上22団体)



平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第三十四条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年2月

公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団